

自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。
(実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ほくと苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県仙台市
記入者名 (管理者)	勝山 こず枝 (介護主任)
記入日	H 19 年 10 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	理念があり、ホーム内にも提示してある。又、パンフレットに分かりやすく記入してある。		
2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し理念の共有に努めているが、理念の全てにおいて職員全員が理解し実践に向け取り組んでいるとは言えない。	○	職員全員の理念の共有、実践の為定期的に話し合いをしていきたいと思う。 新採用職員にはオリエンテーションにて理念を理解してもらおう。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	併設のデイサービスで行われる地域の方々にも参加を呼びかけた行事へグループホームの入居者様とご家族も参加し、交流出来る場を作っている。その交流から、地域の方々にも入居者様がこの地域で暮らすことが大切という理念を分かってくれたいと思っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所との付き合い 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている	施設長、職員はご近所の方とあいさつをかわしたり、地域のお祭りで会話を交わすことはあるが、気軽に立ち寄ってもらえる付き合いはできていない。		
5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者様には、地域の夏祭り等に参加して頂き地元の方々と交流して頂いている。又、主に施設長や事務長が地域の町内会の行事に参加している。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームで主催した講話のようなものは現在していない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で話し合い改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の様子や行事の取り組みや報告を行い、話し合いご意見等頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在行っていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設長や事務長が、成年後見制度について学んでおり必要があれば活用できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長は高齢者の虐待防止について学び、施設内で虐待がおきないように注意を払っている。職員は、虐待等をしないように常に注意をし対応しており、研修にも参加している。	○	新採用職員へのオリエンテーションの項目にも取り入れる。

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除の際は必ず2名以上の職員で対応し説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長は出勤時や午後には必ず入居者様に話し掛けを行っており、できるだけ意見や不満を聞き取ろうと努めている。職員も食後や就寝前など話をできる時間を持つよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来苑時以外にも定期的に毎月の広報誌や請求書を送る際に文章で様子等を報告している。又、広報誌は個々にあわせて写真を選んでいる。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、ご家族来苑の際には、こまめに声を掛け要望、意見は伺っている。又、意見箱と苦情シートを設置しているが、活用されていなかったため現在ご意見記入シートを作成した。	○ ご家族等の来苑時に記入シートの使用方法等伝えていく予定。又、意見交換会等も検討していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている	計画作成担当者や介護主任は、定例会ということで直接理事長との話し合いの場を設けている。その他の職員が意見や提案をする機会は設けられていないが、通院介助時に話すことはある。施設長はできるだけ意見や不満を聞き取ろうと努めている。	○ 役職者以外の職員も理事長と話し合いをできる機会を検討したい。年に2回施設長と自己目標について個別の話し合いをするので、その際に意見交換する時間を設けられるよう検討していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	会議の時間は作り、職員がバランス良く出席できるよう調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎年、退職者の補充のため等により職員の異動があるが最小限にとどめており、残っているなじみの職員がフォローし対応している。	

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の勉強会や法人外の研修を受ける機会を確保している。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	研修や他の施設との交換研修等に参加し質の向上に取り組んでいる。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	法人全体でのお花見や忘年会等を開催し、日頃感じていること等を話せる機会を作っている。又、施設長が日頃から職員と交流し、いろいろな話をくみ取ることでストレス軽減の環境作りに取り組んでいる。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	施設長は日頃より職員の仕事状況等を見て把握している。職員の自己目標の話し合いの際に向上心を持って働けるよう、各職員の状況に合わせアドバイス等を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	ご本人から利用前に相談を受けた事はないが、相談があればお話を傾聴し受け止める努力をしていきたい。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	ご家族からの相談に関しては、何度もお話をお伺いする(話し合う)機会を作り、ご家族の心情や状況を受け止めるよう努めている。	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実態調査を行い、ご本人とご家族の必要とする支援を見極めている。		
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人が徐々になじめるように、ご家族と相談をおこなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	一緒に過ごす中で、感情を共有したり入居者様から学ぶことは沢山ある。		
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事への参加を促したり、来苑時にはご家族とともに居室で過ごして頂くなどしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族との関係の理解に努め、各家族ごとに対応している。		
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人との関係が保てるよう来苑しやすい環境作りに努めている。又、併設のデイサービスを利用されていた方にはデイサービスに遊びに行く機会を設けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の相性等を考え席に誘導する等配慮しているが、難しい部分もある。	○	レクリエーション等により楽しみながらお互いに分かり合えるような環境作りをもっと考えていきたい。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	現在まで退所後も関係を求められたケースがないが、求められた場合は、話し合いをもち対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、ご本人の意向をくみ取れるよう努めている。ご本人より訴え等ができない場合には日々の観察の中からくみ取れるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に(実態調査等により)ご家族やケアマネジャーよりこまかく情報収集を行い、会議で内容を報告し職員全員で把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々一人ひとりの状態等をケース記録に記入し、職員間でも申し送りを行なうことにより把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議、計画作成者会議(看護師も含め)、ご家族との連絡等を行い作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大幅な変更が必要な場合は見直し新たに作成するが、小さな変更は現行の計画に付け加えている。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や様子は個別のチェック表やケース記録に記入し職員全員で確認している。又、会議にてその内容やケア計画見直し等について話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やご家族の状況や要望に応じて、系列のグループホームや併設のデイサービスの行事に参加させてもらうなど協力してもらい支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて、外出時はボランティアの協力を得ているが、その他からの支援は現在受けていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	頻回にはないが、必要性に応じ他のサービス事業者に相談しサービス等をうけたことはある。今後も要望や必要性があれば話し合い支援について検討していく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない	注意し行っている。(個人情報の取り扱いについては就業時に契約書を提出している)	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様が希望を表せるように、ご本人の理解力に合わせた説明を行うよう心掛けているが、認知症の進まれた方にはご本人が決める部分より職員が誘導している部分が多いように思われる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	できるだけ入居者様一人ひとりのペースや希望に添えるよう心掛けているが、安全面や職員側の考え等により職員ペースになることもある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で希望して理容店を利用出来る方はご家族と希望の理容店に行かれています。行事や本人の希望により化粧をする事もあり、身だしなみには気をつけている。	○ 日常的に化粧をする機会等を考えいきたい。又、ご近所の理容店の利用等も考えたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事活動を好まれる方には、その方の状態に合わせ(職員が見守り)準備や片付けに参加して頂いている。日常的にその方の好きな物を聞きメニューに取り入れたり、入居者様と買物に行った際に食べたい物を購入する等食事を楽しめるよう支援している。	
55	○本人のし好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつ等は、入居者様の好みに合わせ提供している。たまに好きなアルコールを飲みたいとの希望があり行事の際に提供している。	○ 行事以外でも希望があれば、適量のアルコールを飲む機会を考えていきたい。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	必要に応じ、排泄のチェックシートを利用し、排泄パターンを把握、声掛けや定期的なトイレ誘導を行い排泄の失敗を防ぐように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様から希望が無いことが多い為、体調面や衛星面を考え職員が決めることが多い。(一番風呂に入りたい等の希望があった場合は、希望に沿った対応をしている。)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も疲労感の見られる場合や体調面を考え状況に応じ休息して頂いている。昼寝の習慣のない方は、水分補給やテレビを見たりとゆっくりだんらんする時間を作っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の介護度の状況から、生活歴を活かした役割等の支援を出来ている人と出来ない人がいるが、楽しみや気晴らしに関しては、毎月の行事や日々のレクリエーションや買物、散歩、ドライブ等を取り入れ入居者様に喜んで頂けるよう考え支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、お金を管理されている方は少ないが、管理能力のある方には所持し好きな物を購入できるよう支援している。管理の難しい方には、ご家族に相談し苑の立て替えで好きな物を買える機会を作ることもある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	入居者様のその日の気分や希望によって、散歩に出かけている。ドライブや買物は当日では難しいので事前に予定を組んでいる。ご家族との外出はいつでもできる状態である。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している	定期的に行うのは難しいが、何度か入居者の希望をとり個別に少人数で出掛けている。今後も不定期だが、考えていく予定である。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、電話をかけられる方には自由にかけて頂いている。また、一部かけ方を忘れた方には、かけ方の説明等を行うこともあるが、認知症の進んだ方には、ご家族、ご親戚の方に来苑して頂いている。		
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様に面会に来られる方には、いつでも歓迎している。また、来苑された方に応じ居室にテーブルと椅子を用意しゆっくり過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は職員全員行わないよう心掛けて対応しており、行っていないが、身体拘束についての知識を正しく理解しているとは言えない為、今後研修に参加した職員と情報を共有し知識を深めていきたい。	○	身体拘束について職員会議で話合う予定
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時見守りが必要な入居者様は、日中は観察出来るところで過ごして頂くことが多いが、その他の方や夜間は、ご本人様が気にされないよう注意しながら所在、安全確認を行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	居室に関しては、一人ひとりの理解力に合わせ危険と思われる物品も保管や使用している方もいる。普段の様子から理解力を判断し、その理解力に応じ分かりやすく物の名前を書いたり、使用方法を書いたりしている。共有スペースに関しては、一律に入居者様の見えない場所に保管、又は、職員が把握できる場所に保管している。		
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様の状態に合わせた事故防止の対応に努めているが、職員により知識に差があると思われる。	○	勉強会等を考えていく。

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが、法人の勉強会や職員会議で看護師である施設長より緊急時の対応についての指導は受けている。又、マニュアルも作成している。	○	急変や事故の際の定期的な訓練や知識の確認をしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	避難訓練は年2回実際に入居者様も含め行っている。避難場所に関しても、町内会長さんに相談し苑の隣の駐車場をお借りできるようになっている。地域の方々の協力に関しては具体的にどうすれば良いか検討していきたい。	○	法人で地域の方々にも呼びかけた防災訓練を考えている。又、職員(状況により入居者様と)が地域の防災訓練に参加を検討中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケア計画を作成する際に一人ひとりの起こり得るリスクも予測し、ご家族に相談、了承を得た上で実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化が見られた場合は、速やかに施設長(看護師)に相談、状態に応じかかりつけ医に連絡し受診(往診)して頂いている。その情報を職員間で連絡し合い共有するよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりが服用している薬についての作用、副作用について記入してある説明書を個人ファイルに綴り確認している。又、注意が必要な薬に関しては施設長から指導を受け状態観察を行っている。その他、処方薬に変更があった場合は、ケース記録と連絡帳に記入し職員間で確認し合っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	便秘にならないよう水分補給や食物繊維の多い食事の提供等を心掛けている。また、朝食時にヨーグルトを提供するなど工夫しており、体を動かすことに関しては、散歩や室内を歩く等取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、その方に合わせ(歯磨き、うがい、ガーゼでの拭き取り)口腔ケアを行っている。		

	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分、食事をチェック表に記入し把握し、その方に合わせ支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり会議等で職員同士確認している。ノロウイルスに関しては、台所に対応方法を掲示している。日常的には、うがい手洗いをこまめに行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理器具は毎日夜にハイター消毒している。又、冷蔵庫内は定期的に清掃、整理を行い食材の管理には気を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく親しみやすくなるように、玄関前の掃除や花壇に花を植える等雰囲気作りを行っているが、まだ、施設の感じがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での音に関しては、テレビの音量等に配慮していないところがあり、聞きたい人ではなく全員に聞こえる音量になっていることがある。季節感に関しては、季節の花を飾ったり、入居者様の手作りのカレンダー等を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人になれる場所は難しいが、フロアのソファや談話室のソファで少人数で過ごして頂いている。		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用する物品はできるだけご自宅で使用していた物やそれに近い物を持ってきて頂いている。配置に関しては、入居の際にご家族(分かる場合はご本人も)、職員と相談し決めている。入居者様の認知症の状態により危険になった物品等はご家族と相談し撤去する場合もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気がよどまないよう毎朝換気を行っている。室温調節に関しては、暑すぎず寒すぎないように調整し、入居者様の体感温度の差に応じて着用する衣類を調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活ができるよう和室以外はバリアフリーになっており、廊下、トイレには手すりが付いている。また、居室が分からなくなる方には、見えるように名前を貼っている。		
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方の能力に応じて、できることはして頂いているが、声掛けや準備等行う部分が多いと思われる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	全員ではないが、花や野菜を植えその手入れを楽しんで頂いていた。建物の構造上周りの使用できる範囲が狭い為活動は難しい。身体的に難しい方には、庭の花を見て頂く等して楽しんで頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼすべての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

様式8

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼすべての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・施設長が看護師（DSと併設になっている為日中は看護師がいる）の為、体調不良時は速やかに診てもらうことが出来る。又、理事長が医師ということで、入居者様のかかりつけ医になっており、常に体調面を把握している為入居者様の健康面の相談や体調不良時の対応が出来る。
- ・職員は常に笑顔で入居者様に接しており、日々出来るだけ多く入居者様が笑顔で生活出来るように考え対応している。